

## 彩の国資源循環工場運営協定書に基づく環境調査の結果について

下記のとおり、環境調査を行った結果、防災調節池に流入する直前の雨水から環境基準を超える鉛が検出されました。

### 1 彩の国資源循環工場運営協定書に基づく環境調査結果

(1) 採水場所 防災調節池に放流する直前の雨水最終排水口 ([位置図](#))

(2) 採取日及び測定結果

採水した日	測定結果	備 考
平成18年 8月 9日	0.27 mg/	河川水質の環境基準(0.01 mg/)を超過
平成18年 9月 4日	0.014 mg/	河川水質の環境基準(0.01 mg/)を超過
平成18年10月24日	0.004 mg/	

(3) 下流の測定結果

[防災調節池](#) 塩沢川 ([水質](#)・[土壌](#))

### 2 原因と改善状況

原因及び原因者による改善措置は次のとおりです。

(1) 平成18年9月4日、原因究明のため各社工場敷地内の雨水排水を採取

(2) 平成18年10月10日に上記の測定結果が判明し、オリックス資源循環(株)敷地内で採取した雨水排水から、鉛0.34 mg/ (環境基準0.01 mg/ )、ホウ素15 mg/ (環境基準1.0 mg/ )が検出されました。

(3) 同日、同社に対し原因究明と改善措置を指導したところ、次のとおり原因が判明し、改善措置が講じられました。

主な改善措置は以下のとおりです。

貯留ヤード棟に堆積したスラグに付着していた水砕水(溶融スラグを冷却、凝固させるための水=鉛を含んでいます。)が、貯留ヤード棟前面の雨水排水溝へ流出したため、鉛が場外に流出しました。

10月14日に雨水排水溝の改修、雨水側溝の両端の閉鎖、貯留した雨水の水処理設備への送水処理、さらに11月15日には、スラグの浄水による洗浄等の対策を講じ、雨水に水砕水が混入しないようにしました。また、10月16日には場内の全雨水側溝を清掃しました。

酸洗浄塔(ガスを精製する設備)内のプラスチック製の充填材の交換作業中に、充填材に付着していた鉛が重機や作業員を介して道路に運ばれ、降雨時に雨水側溝に流入した可能性がある。

作業方法を改善し、副生物製造場所に防液堤を設置する等、場外への流出防止を図りました。

熱交換器(ガスを精製する過程で使用した酸洗浄水を冷却するための設備)のプレートは鉛が付着します。このプレートを専用洗浄場で高圧洗浄した際、鉛を含んだ洗浄水が構内通路に流出しました。

10月12日に洗浄場前に防波堤を設置し流出を防止する対策を講じました。